

小学校算数訪問の状況から考える 2学期からの小学校算数科の授業づくり

すべての子供に
「できた」「わかった」を!

1学期の学校訪問では、小学校算数訪問として、チェックシートをもとに授業を参観し、意見交換をさせていただきました。そこから見える状況をもとに、子どもたちが「わかった」「できた」を実感できる授業へレベルアップするためのポイントについてお伝えします。



- ◎めあて、まとめがほぼ全ての授業で提示されていました。
- ◎タイムマネジメントが意識され、適用題に取り組む時間が確保されている授業が増えました。
- ◎振り返りを書くよう指示している授業も増えました。

これらの良い点は、引き続き実践していきましょう。



- △児童の納得感が不十分のまま、教師主導でまとめられる授業がありました。
- △達成度状況を把握できない授業や達成した児童の割合が5割に満たない授業が見られました。

こちらは、課題の見られた点です。授業改善に取り組んでいきましょう。



全ての児童が本時のねらいを達成できるよう、**展開場面**を充実させていきましょう!

ポイント① 問題解決の過程を共有し、理解を深める

- 児童が、自分の考えを式や図や言葉で表現する場面を意図的に設定する。
- 問題解決の過程を共有する際には、式や図や言葉を関連させながら理解し合えるようにする。

ポイント② 適用題の解決方法やまとめにつながるキーワードを残す

- 問題解決の過程で働かせる見方・考え方を全員が理解できるよう、「なぜそう考えたのか」などと問いかけ、キーワードを引き出すようにする。
- 児童自らがまとめを考えることができるよう、また、自力で問題を解くことができるように、キーワードを板書に残す。

ポイント③ 本時のねらいに沿った適切な適用題を設定する

- 「式がかければよいのか」「図や言葉なども書くのか」など、本時のねらいを達成した児童の姿を具体的に想定する。
- 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」のどの観点が本時のねらいなのかを明確にして適用題を設定する。

算数訪問時の実践より
(伯耆町立溝口小学校)

適用題を解くときのカギとなる見方・考え方が、板書に残されている。

問題解決の過程を式や言葉でも表現させ、本時のねらいを達成できたかを見取っている。

⑤ 大きな数の計算の仕方を考えよう。
⑥ 14000円と8000円の自転車があります。あわせて何円になりますか。
⑦ 大きな数も1000のいくかが考えられると計算できる。

⑧ しき 15000 + 6000 = 21000
答え 21000円
★ 1000が(15+6)=21だから 21000円
⑨ わだんの方がい
しき 14000 - 8000 = 6000
答え 6000円
★ 1000が(14-8)=6だから 6000円

式と図(具体物)を対応させながら、問題解決の過程を共有している。

まずは、「めあてーまとめ・振り返り」を設定し、式や図や言葉をつなげて理解を深める授業展開を行うことで、全ての児童が自力で問題を解くことができるようにしましょう。

